

大丈夫なのでしょうが

# 公共事業の大盤振る舞いでふくれあがる借金

## 平成21年度補正予算について

千葉県職員労働組合 行政対策部

森田知事当選後初めての予算、アクアライン値下げなどで話題を呼び、知事も「ラッキーだった」と記者に語った国の景気対策にのった予算を分析する。

### (税収減の中で予算はふくらむ)

6月補正を含めた21年度予算は、県税収入が約800億円減少したにもかかわらず昨年度より約1000億円増加し約1兆5千億円の規模になった。

昨年度より、地方譲与税が約300億円、地方交付税が約130億円、国庫支出金が約180億円増え、合計約650億円増加したほか、臨時財政対策債を1200億円発行（前年より600億円増加）した。

### (国債、県債の大乱発)

税収800億円減と歳出増1000億円、併せて1800億円の出所は、すべて借金である。国は景気対策と称して、

国債を大增発して14兆円に達する補正予算、県も臨時財政対策債の大乱発、県債残高は、970億円増加して、約2兆5千億円規模にふくれあがった。

### (公共事業復活)

事業別で金額の大きいものをあげると、道路橋梁事業216億円増（401億円）、河川関連83億円増（172億円）、土地改良事業46億円増（187億円）など公共事業の大盤振る舞いが目立ちます。国からの公共投資臨時金を当てに、東関道館山線の4車線化に63億円の支出は、国道事業に県費が直接支出される初めてのケースです。（直轄事業負担金でなく）マスコミで大きく取り上げられているアクアライン値下げのため10億円などに比べると一桁違う金額が、従来型の公共事業につき込まれています。

### (生活関連にもちょっぴり)

国から子育て支援などの名目で93億

円の臨時交付金が来るので、私学助成に昨年より9億円増の216億円、保育所整備等の子育て支援に26億円計上しました。中小企業融資の拡大や、学校の耐震化、道路補修、学校施設の整備などを予算化したことは、県民からみて評価できますが、今年1年限りの措置だとすると手放しでは喜べません。

### (消費税増税に導く)

「来年度は、今回のような国からの交付金を期待することは難しい状況」にあると県当局が認めるように、借金での大盤振る舞いは問題があります。

国は、全国で臨時財政対策債を2兆8千億円（前年より2兆3千億円増加）も認めましたが、後年度の交付税で返済することは不可能です。消費税増税、特に地方消費税（消費税の25%は地方に配分される）に頼る財政構造に地方を誘導しているのは重大問題です。

